



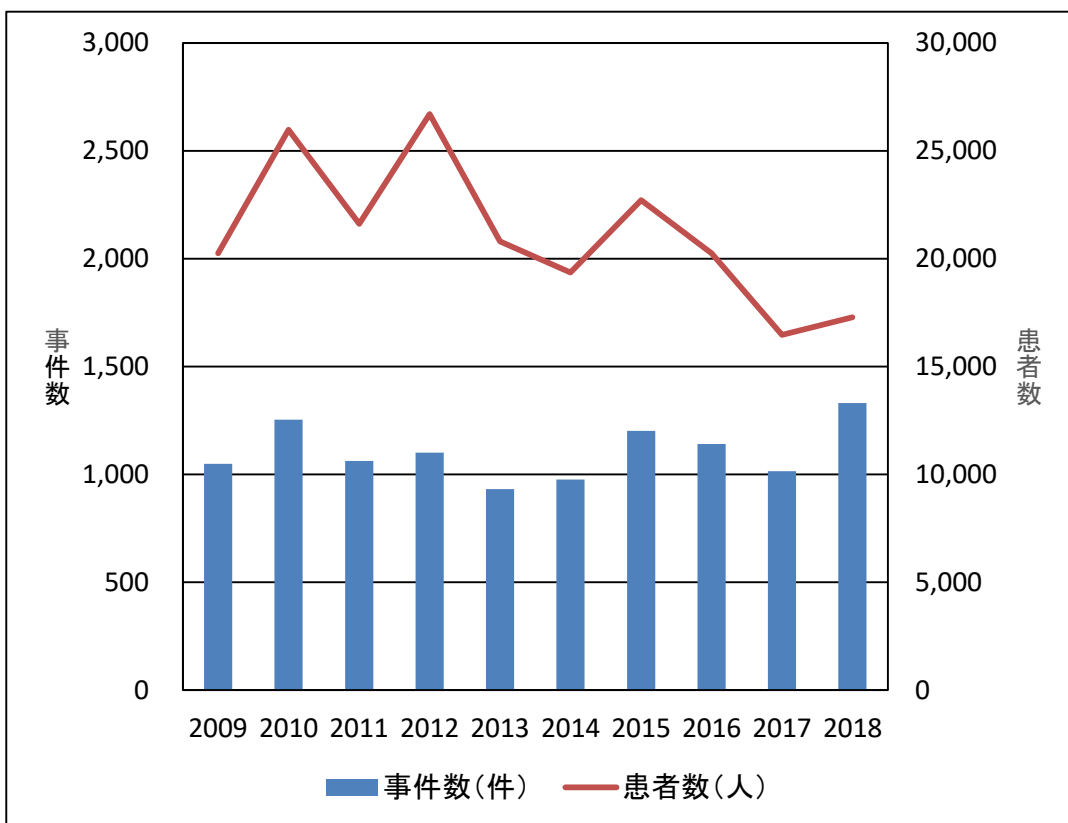
1. 全国食中毒の事件数と患者数の推移

2009年～2018年(10年間)の全国における食中毒の発生状況をみると、2018年は10年間で事件件数をもっとも多くなりました。特にアニサキスを原因とする事件数が倍増していることが増加の要因になっています。

患者数の変動はありますが、2012年以降は減少傾向が見られます。この10年間でもっとも患者数が少なかった2017年と比較すると、2018年は17,282人と818人増加しました。

死者数の3件は、いずれも植物性自然毒(イヌサフラン2件、ニセクロハツ1件)を原因とするものでした。

最近10年間の全国の食中毒の事件数と患者数の推移



	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
事件数(件)	1,048	1,254	1,062	1,100	931	976	1,202	1,139	1,014	1,330
患者数(人)	20,249	25,972	21,616	26,699	20,802	19,355	22,718	20,252	16,464	17,282
死者数(人)	0	0	11	11	1	2	6	14	3	3

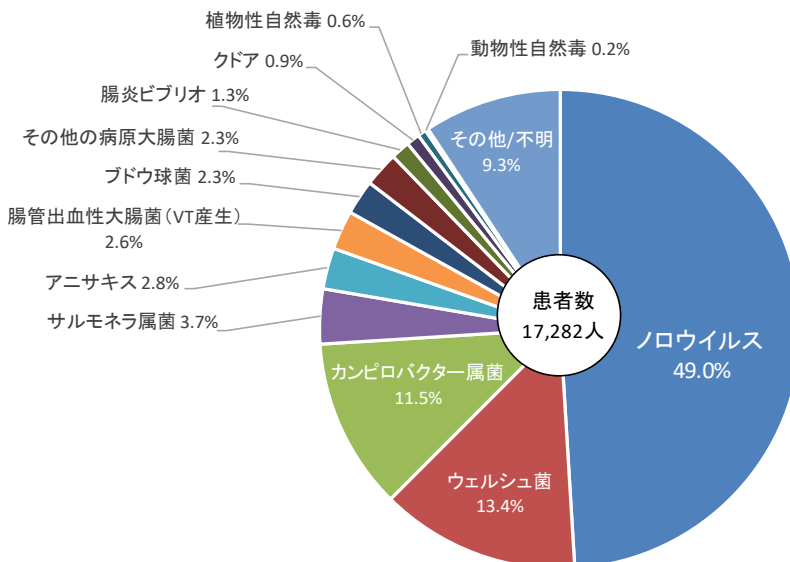
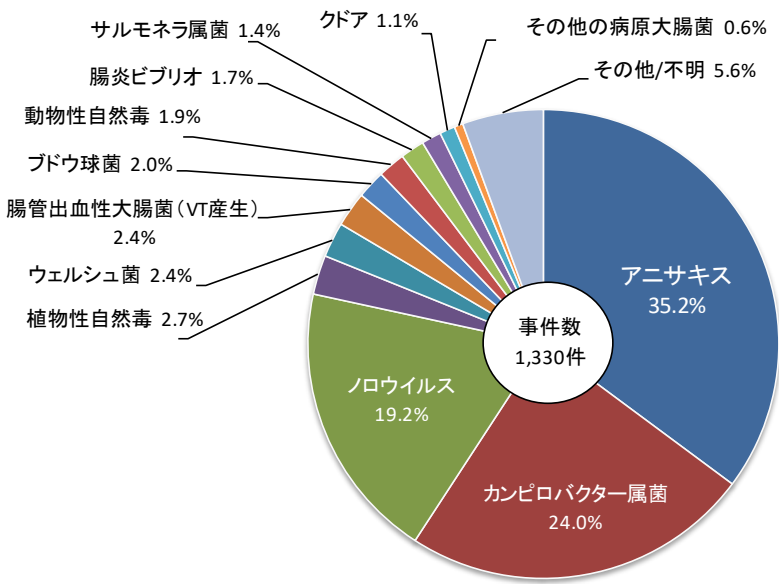


2. 病因物質別の食中毒発生状況(2018年)

2018年の病因物質別の食中毒発生状況をみますと、事件数は、寄生虫のアニサキスが468件で初めて第1位になりました。内視鏡による検査技術が進展し、医師からの届出が増加したこともひとつの要因と考えられます。アニサキスに次いでカンピロバクター属菌が319件、ノロウイルスが256件で、アニサキス、カンピロバクター属菌、ノロウイルスで全体の約78%を占めています。

患者数はノロウイルスが8,475人で全体の約半数を占めています。ウェルシュ菌による患者数が2,319人と2番目に多く、カンピロバクター属菌による患者数が1,995人と3番目に多くなっています。2018年は、ウェルシュ菌を原因とする食中毒患者数が倍増しました。

最近3年間の事件数、患者数の推移は次頁をご参照ください。



3. 最近3年間の病因物質別の食中毒発生件数の推移

病因物質	2018年		2017年		2016年	
	事件数	構成比	事件数	構成比	事件数	構成比
アニサキス	468	35.2%	230	22.7%	124	10.9%
カンピロバクター属菌	319	24.0%	320	31.6%	339	29.7%
ノロウイルス	256	19.2%	214	21.1%	354	31.1%
植物性自然毒	36	2.7%	34	3.4%	77	6.8%
ウェルシュ菌	32	2.4%	27	2.7%	31	2.7%
腸管出血性大腸菌(VTEC)	32	2.4%	17	1.7%	15	1.3%
ブドウ球菌	26	2.0%	22	2.2%	36	3.2%
動物性自然毒	25	1.9%	26	2.6%	32	2.8%
化学物質	23	1.7%	9	0.9%	17	1.5%
腸炎ビブリオ	22	1.7%	7	0.7%	12	1.1%
サルモネラ属菌	18	1.4%	35	3.5%	31	2.7%
クドア	14	1.1%	12	1.2%	22	1.9%
その他の病原大腸菌	8	0.6%	11	1.1%	6	0.5%
セレウス菌	8	0.6%	5	0.5%	9	0.8%
その他/不明	43	3.2%	45	4.4%	35	3.1%
計	1,330	100.0%	1,014	100.0%	1,140	100.0%

病因物質	2018年		2017年		2016年	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
ノロウイルス	8,475	49.0%	8,496	51.6%	11,397	56.3%
ウェルシュ菌	2,319	13.4%	1,220	7.4%	1,411	7.0%
カンピロバクター属菌	1,995	11.5%	2,315	14.1%	3,272	16.2%
サルモネラ属菌	640	3.7%	1,183	7.2%	704	3.5%
アニサキス	478	2.8%	242	1.5%	126	0.6%
腸管出血性大腸菌(VTEC)	456	2.6%	168	1.0%	253	1.2%
ブドウ球菌	405	2.3%	336	2.0%	698	3.4%
その他の病原大腸菌	404	2.3%	1,046	6.4%	569	2.8%
化学物質	361	2.1%	76	0.5%	297	1.5%
腸炎ビブリオ	222	1.3%	97	0.6%	240	1.2%
クドア	155	0.9%	126	0.8%	259	1.3%
植物性自然毒	99	0.6%	134	0.8%	229	1.1%
セレウス菌	86	0.5%	38	0.2%	125	0.6%
動物性自然毒	34	0.2%	42	0.3%	73	0.4%
その他/不明	1,153	6.7%	945	5.7%	600	3.0%
計	17,282	100.0%	16,464	100.0%	20,253	100.0%

4. 原因施設別の食中毒発生件数(2018年)

原因施設	事件数 (件)	構成比 (%)
飲食店	722	54.3%
家庭	163	12.3%
販売店	106	8.0%
事業場	40	3.0%
旅館	31	2.3%
仕出屋	30	2.3%
学校	21	1.6%
製造所	11	0.8%
病院	5	0.4%
その他/不明	201	15.1%
計	1,330	100.0%

原因施設	患者数 (人)	構成比 (%)	1件当たり (人/件)
飲食店	8,580	49.6%	11.9
仕出屋	2,682	15.5%	16.5
事業場	1,959	11.3%	18.5
旅館	1,266	7.3%	31.7
学校	1,075	6.2%	34.7
製造所	345	2.0%	11.5
家庭	224	1.3%	10.7
販売店	173	1.0%	15.7
病院	103	0.6%	20.6
その他/不明	875	5.1%	4.4
計	17,282	100.0%	13.0

※本資料は厚生労働省ホームページに掲載されている食中毒統計調査資料のデータを編集したものです。元となるデータは次のURLをご参照ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html